

第19回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成20年3月19日(水) 18時00分～20時20分
場所	船橋市浜町公民館 講堂
参加者数	39名
出席委員	13名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、宮脇勝、及川七之助、上野菊良、竹川未喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、佐藤正芳、下原慶啓) : 委員長
結果要旨	
<p>第18回委員会の開催結果概要</p> <p>資料1により確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>緑化試験等の進め方</p> <p>報告事項(2)「第6回勉強会の開催結果概要」及び報告事項(1)「冬季底生生物調査の結果」と併せて、資料2により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><u>冬季底生生物調査の結果に関して</u></p> <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウネナシトマヤガイが確認された場所の地盤高を記録しておくべきである。 <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウネナシトマヤガイについて、今回の調査では2個が完全に見つかった。よって、この護岸をもって生物が死滅するとかいうようなことはないことが証明されたと思う。 <p><榊山委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・のり先の状況写真については、護岸の先端と海底地盤の交わる部分の写真を載せてほしい。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここは、マガキをハビタットとする生態系だということが確認できた。ただ、最終的にはアサリを可愛がってあげるとい気持ちを持ってないといけない。その第一歩として岸壁にはマガキを中心とした生態系をまず形成させて、一応健全性を維持しながら、さらに先の砂浜をみていく、このような考え方でいいと思う。 <p><u>緑化に関して</u></p> <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aゾーンにおける砂の入った袋について、この程度の固定だと波が来た場合に流れるおそれがあるので、固定をしっかりとしない限りこの工法には反対する。 	

< 工藤委員 >

- ・袋の設置場所は AP + 3.0m 以上で、かなり安全性を考えていると思う。

< 及川委員 >

- ・昨年度の台風時は、ゴミや流木が結構上の方まで上がっていた、その辺も考えておかないといけない。

事務局回答

これは一つの案で、最大ここまではできるということを示した。また、台風を想定して、砂は江戸川放水路河口の砂、或いはふなばし三番瀬海浜公園の砂の使用を考えている。

< 及川委員 >

- ・やはり流れないようにしてつくってほしい。

< 遠藤委員長 >

- ・緑化については、試験的に実施する方向となっている。具体的な施工については方法を考えていかなければいけない。

< 後藤委員 >

- ・Aゾーンの試験について、一律にべたっと行うのではなく、石の隙間を埋めるような形の事を考えながら、流されない植栽の方法を検討した方がよい。
- ・イワダレソウやハマボッスを実験的に行うのがAゾーンだと思う。
- ・Bゾーンはもう少し本格的なものを行うとよい。

< 上野委員 >

- ・石積み護岸にしたのは、浸透性のある護岸ということを検討したものだと思う。砂がたまらないところに無理無理に植栽を行うことに疑問がある。どのように考えているのか。

< 遠藤委員長 >

- ・景観について検討を進める中で、緑化という意見が出てきた。

< 榊山委員 >

- ・Aゾーンで検討すべきことは、のり面部分の下をどこまで試験的に行うのかということだと思う。また、天端付近の植生を考えた時、50年に1回くらいの大きな波が来ると流されるだろうということは覚悟しておいた方がよい。絶対安全だというのは無理だと思う。

< 三橋委員 >

- ・安全性を考えたら、4mまで上げ、なおかつ被覆をできるだけ少なくする、それで安全性が確保できたらもう少し下げていくなど、いろいろなことがあるのではないかな。また、江戸川放水路もしくは三番瀬の海浜の土ならば、流れてもあまり被害がないと思う。

< 工藤委員 >

- ・とりあえず、例えば AP + 4.0m から上だけ行い、下げるならば様子をみながら下げてくればいのではないかな。

<倉阪委員>

- ・Aゾーンについては、初めは緑化を考えずに設計をした。重要なのはBゾーンで、Aゾーンで行う意味はそう重くはないはずである。流されることを懸念するのであれば、幅をもう少し狭めて土の量を少なくする選択肢もあると思う。

<後藤委員>

- ・ハマヒルガオは下の方で少し実験してもいいと思う。

<工藤委員>

- ・樹種の選定というのは、もし決めたととしてもそれが勝手に遷移して最終的に決まていくので、とりあえずあれもこれも行っておくということしかないのではないか。

<遠藤委員長>

- ・スケジュールはどのように考えているのか。

事務局回答

状況により、5月、6月の実施は可能であると考えている。

<遠藤委員長>

- ・Aゾーンについて、実施するという前提で準備を進め、次回委員会で規模などを最終的に決めていくこととする。

<三橋委員>

- ・5月終わりではなくできるだけ早く実施した方がいいのではないか。

<後藤委員>

- ・4月に勉強会を行った方がよい。

<遠藤委員長>

- ・4月に勉強会を開催できるか。

事務局回答

できるだけ早く皆さまに情報を流せるように努力はする。

<榊山委員>

- ・Bゾーンについて2つ問題がある。砕石で被覆石の間を埋めてしまうと、波を消す機能を低減させてしまうのであまりよくない。また、吸出し防止シートをAP+2.1mまで下げると、空気を含んだ領域ができ、シートを持ち上げる力が非常に大きく働くので、水面を横切るまでシートを深くしない方がよい。

事務局回答

実施に際しては、これから十分検討したい。

<遠藤委員長>

- ・別な機能を持たせると、護岸の機能が少し軽減してしまうことがある。一番危険な時に本来の機能を発揮できないと問題であるので、検討を要する。

さらし砂に関して

<後藤委員>

- ・400m³入ると本格的になってしまう。100m³ぐらいの小規模でいいと思う。

<歌代委員>

- ・これからは、護岸をつくったところの前に砂を置いていこうという考えなので、400m³の案を支持する。

<倉阪委員>

- ・護岸の前に置いていくという案は、三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会で検討し、計画づくりをしていく。その委員会において、これは小規模だからできる限り早目に実施できるように護岸検討委員会の方から案を三番瀬再生会議へ上げてもらうという形で仕切った。

<歌代委員>

- ・400m³案の支持を取り下げる。

<竹川委員>

- ・“さらし砂”はどういう意味なのか。

事務局回答

三番瀬円卓会議の再生計画案から引用した。

<竹川委員>

- ・三番瀬円卓会議では、さらし場と表現していた。
- ・この部分は、自然に砂がつくのではないか。なぜ、砂が流れないように仕掛けをしなければいけないのか。

<遠藤委員長>

- ・生物相について調べるために、砂が動かないようにしておく必要があるという経緯だったと思う。

<三橋委員>

- ・漁業者から航路に砂が落ち込まないようにしてほしいという意見があった。それは尊重しなくてはいけない。

<後藤委員>

- ・ここは特殊な場所である。ここだったら砂を置いても流れないので、生物が潮間帯から出て流れないだろうという前提のもとで発言をしていたつもりである。前の方に石を置くのは、漁港の方に砂が流れないように、今回提案があったものだと思う。

<竹川委員>

- ・もう少し小規模に行って、砂の動きを確認すればよい。後藤委員のような発想で考えた方がよい。

<榊山委員>

- ・市川漁港は、定期的に浚渫をしているのか。

<及川委員>

- ・10年くらい前に浚渫したが、施設が老朽化しているので深く掘れず、ぎりぎりのところで掘った。埋まった場合は掘ればよいという議論は、市川漁港には当てはまらない。

< 榊山委員 >

- ・浚渫の実施状況から判断すると、砂の動きは港の口にはあまり向かっていないものと推測される。

< 及川委員 >

- ・西側の底引きの漁船が出入りしているところは、船の出入りで泥が上げられるので深くなっている。

< 遠藤委員長 >

- ・100m³程度の規模により実施する方向で準備することとする。

< 竹川委員 >

- ・“さらし砂”については、“砂つけ”とすれば、すっきりするのではないか。

< 後藤委員 >

- ・“砂つけ”という言葉の方が、皆が変な思いをしなくていいのならば、言葉を変更しても構わないと思う。
- ・流出防止の石の置き方を工夫した方がよい。また、石の隙間を通して砂が向こうへ流れて生物にダメージを与えないよう構造を検討してほしい。

護岸バリエーションの検討

資料3により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

< 竹川委員 >

- ・市川市所有地の方の中間的な報告を、次回にしてほしい。

< 後藤委員 >

- ・まちづくりに関し提案をつくっておいた方がよい。

< 三橋委員 >

- ・先日、行徳支所へ行き状況を聞いたら、まちづくりが進まなくなっているとのことだった。護岸をまちづくりに合わせるのではなく、まちづくりの可能性を膨らますために、護岸の在り方を提案してはどうか。

< 遠藤委員長 >

- ・お互いにいろいろなアイデアを出しながらつくっていくということが、大事だと思う。

その他

- ・下記について事務局から説明があった。

公開モニタリング調査を4月上旬に実施する予定である。

次回委員会は5月の開催を目標に調整中である。

委員の任期は1年となっているが、現在のところ委員改選の予定はないので、新年度についても今のメンバーでお願いしたい。

傍聴者からの意見

- ・定期的に、市川市の方から状況を説明してほしい。
- ・「自然再生の場」は別委員会で検討中とあるが、どのような状況なのか。

倉阪委員回答

別委員会というのは「三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会」である。陸域の湿地再生の件は、少し遅れ気味である。